

昭和八年・福井陸軍特別大演習とその時代

児玉 忠¹

¹正会員 (〒910-0006 福井市中央 2-2-12-502)

E-mail: oakist@ybb.ne.jp

土木施設等のインフラ施設は何らかのイベント開催を機会として一気に整備されることがあるが、ここでは戦前の大イベントたる陸軍特別大演習が昭和8年に挙行された福井県の受け止めと公共施設の整備の実態を当時の社会経済状況を背景として紹介した。

Key Words: prewar times, army maneuvers, Imperial visit, Fukui city, public infrastructure

大本営行在所記念碑

碑文 昭和八年秋十月二十三日

車駕福井ニ親臨シ躍ヲ県庁舎ニ駐メタマフコト
凡ソ八日或ハ武ヲ南越ノ野ニ講ジタマヒテ山河
威風ニ震ヒ或ハ方ヲ北陸ノ陸ニ省ミタマヒテ萬
物慈雨ニ潤フ寔ニ是レ稀覯ノ盛典無前ノ徳澤
誰カ惺恐感激シテ報効ノ誠ヲ輸サザル者アラン
ヤ乃チ爰ニ県会ノ決議ヲ経碑ヲ建テテ其ノ由ヲ
勅シ以テ昭カニ後人ニ告グ 昭和十年四月

まえがき

現在、2020年の東京オリンピックに備えて東京を中心とした首都圏ではさまざまなインフラの更新や建設が行われている。このことは前回1964年の東京オリンピックにおいても大改造が行われているし、世界の他の開催都市についても同じことが言えるだろう。オリンピックに限らず何か大きなイベントを契機として、懸案の事業を着工・竣工させたり関連事業をも一気にかたをつけようとするものである。

オリンピックとまではいなくても、戦後この役割をになってきたのは、特に地方都市においては国民体育大会（国体）の開催であろう。全国持ち回りで開催している国体はすでに現在は二巡目に入って、一巡目のときの投資とはスケールは小さくなっているかも知れないが、それでも一定の集中投資は行われている。

このことの功罪はもっと議論されてしかるべきであろう。現に二回目の東京オリンピックとか二巡目の国体においては一回目の時のような爆発的な整備というより少し冷静な成熟都市の観点からコスト比較、既存施設の更

新利用とかイベント終了後の施設活用の観点からも議論が行われている。

それでは戦前の日本においてはどのような状況だったのだろうか。戦前においても戦後の国体に相当するような全国大会・明治神宮競技大会が毎年開催されていたが、開催地は東京を中心として首都圏各地であり、全国を持ち回り開催されるのではなく、全国で開催されるようになったのは戦後のことである。

戦前においてイベント開催とインフラの集中整備という意味で国体に相当したものは、おそらく陸軍特別大演習であろう。この演習実施にあたっては大本営が設置され、天皇行幸も同時におこなわれたことから、特に地方都市にとっては千載一遇の機会であり、滞っていたプロジェクトや懸案の事業が一気に推進された。

昭和8年秋主として福井県嶺北地方でこの大演習が開催されたが、当時の状況を検討したい。

1. 昭和8年前後の社会状況

(1) 全国状況

昭和4年にはじまった世界恐慌は日本を経済不況に陥れていた。昭和7年3月満州国が建国宣言をし、同5月には五・一五事件、翌8年3月国際連盟を脱退など着々と軍部勢力が台頭し始めていた。

一方公共事業の面では昭和7年4月に東京上野に地下街が開業、同6月の赤字公債の発行とともにいわゆる時局国救事業が7年から9年度の3ヶ年事業として実施、失業対策事業が強化された。翌8年3月には三陸大津波が襲い、同5月には大阪市営地下鉄が開業、さらに翌9年には丹那トンネルが開通した。

(2) 福井県の状況

全国と認可を競っていた人絹取引所が昭和7年5月に福井市に開設、翌8年7月福井放送局開局、同9月には福井鉄道線の市内乗入が実現した。もちろん農村は疲弊し不況に苦しんでいたのであるが、全国的な「都市化」の波がようやく福井にも訪れようとしていた。

2. 福井県の公共施設整備状況

大正9年の内務省告示により旧北陸道が国道12号線（現8号線）に指定されたが、福井市内においては九十九橋経由を改めて幸橋（新橋）経由が新ルートされた。そして大正末年頃からの福武鉄道線の福井駅前乗入れ計画と相俟って、同路線の市街地区間の改良が福井県により少しずつ実施されることになった。

そして一般部を後廻しにしてまず幸橋の架換え工事が優先された。昭和3年3月同橋の起工式が行われ同5年10月には内務省次官を迎えて盛大な竣工式が行われた。

しかし、同橋前後の取付け部の改修については、財政難、用地買収の難航、沿道敷地嵩上げ問題、上述した福武線路面問題等があり工事は遅々として進まず、その完成は後述の昭和8年大演習直前であった。

さらに、その他の区間については、時局匡救事業として昭和8年から福井市松本から高木に至る延長約2.5kmについて本県初の内務省直轄事業として改良事業が実施され、突貫工事の結果、これも大演習直前に幾久跨線橋を除き完成した。

このように幹線国道においても本格的改良工事がようやく着手されたところであり、一般道路はほとんど未改良、路面の舗装も福井駅前等中心部でごく一部についてなされているのみで劣悪な道路状況であった。

また福井市は昭和2年に都市計画法適用都市とされたが、同7年10月に初めての都市計画街路網が決定され、初めての都市計画街路事業を準備中であった。¹⁾

3. 大演習・行幸関連規模等

(1) 人員規模

上述したような道路整備状況のなかで、昭和7年暮れに至り突然翌8年秋に福井地方において陸軍特別大演習を举行することが発表された。陸軍の演習は規模別・兵科別等さまざまなものが実施されていたが、この特別大演習は年に一回天皇統裁のもとにおこなわれる最も大規模なものである。類似の演習は明治初年から始まったとされるが制度が確立しての第1回は明治35年の宇都宮とされ福井演習は第31回に当る。なお、北陸地方では

大正13年石川県で行われている。

今回の福井演習の規模は北軍・第九師団（金沢）、南軍・第十一師団（善通寺）合計2万余の兵力で比較的小規模のものとされたが、これらが九頭竜川を挟んで3日間にわたり対峙した。

この演習の陪観者、特別拝観者および一般拝観者は約370団体、33,000人に達し、後日二会場で行われた観兵式の陪観者は約42,000人であった。

また、大演習を統裁するために天皇の行幸が行われた。単独・列立含め拝謁者は約700人、賜饌への招待者約300人、御親閲受閲者は分列部隊・奉唱隊合わせて約22,000人、警備のための県外からの応援警察官約2,600人、その他沿道における一般奉迎者等を含めれば約1週間にわたって福井市街を10万人をこえる人々が集散する大イベントであった。その中に皇族や外国武官、政府・陸海軍等少なからぬ要人が警備対象となっていた。（当時の福井市人口は6万人強）

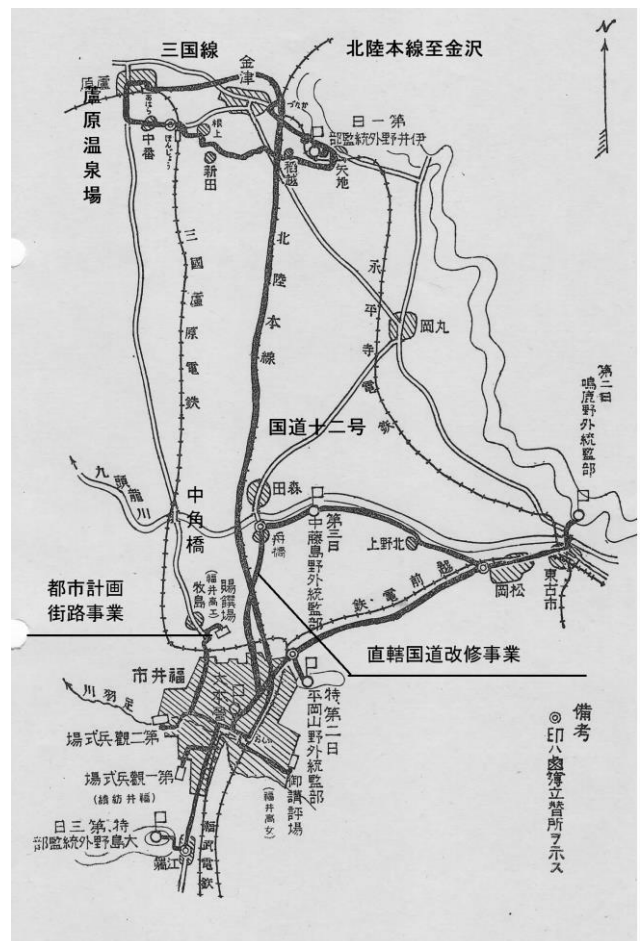


図-1 大演習関係略図²⁾

(2) 主要施設等の配置

大演習関係の主要施設の配置は次の通りであった。

大本営・行在所	福井県庁
観兵場	福井紡績空地、 足羽川九十九堤外地

講評場	福井高等女学校
賜饌場	福井高等工業学校
親閲場	福井紡績空地

大本営に福井県庁があてられたため、演習期間中は福井中学跡地に県庁は仮移転した。

(3) 宿舎関係

大演習関係の主要宿泊施設は次の通りであった。

皇族・政府軍高官	芦原温泉場および市内旅館 市内有力者住宅
兵士宿舎	市内各学校
応援警察官	武徳館・市内各学校

4. 大演習関係施設等整備

(1) 道路関係

もともと大演習実施が発表されたのが約1年前の昭和7年12月のことであったため、大演習のために新たに計画された道路関係の大きなプロジェクトはなかった。それまでに計画・実施されていたものの何らかの理由で停滞していた事業をこの機会に大演習までに竣工させようとするもので主な事業は上述したもののほかに下記のようなものである。なお県道福井吉崎加賀線の中角橋は同7年11月に永久橋化架換えが完了している。

①福井県最初の都市計画事業として、県道福井吉崎加賀線の福井高等工業学校前までの直線化改修工事が実施され8年10月に開通した。(福井市事業)

②中角橋に続いて昭和7年10月に着工し、9年3月竣工を目標に工事中であった九十九橋架換え事業は工期を約半年繰り上げて8年9月に完成した。歩道にはバルコニーも設置されたモダンなものであった。(県事業)



写真-1 完成した鉄筋コンクリート九十九橋
現在の橋梁は昭和61年5月にかかけえられもの

③その他市内各道路の拡幅、屈曲矯正、突角剪除、路面舗装の局部的・部分的な改良工事が県市あわせて20

0ヶ所余の事業が行われた。

④県土木課を中心として、御道筋修路隊が結成され、行幸前30分前までにも道路路面の整備・清掃等が実施された。

(2) 鉄道関係

鉄道施設に関しても、大演習の決定前から予定されていたものを含め下記のような事業が実施されている。

①軌条更新やダイヤの見直しによる北陸線の全般的なスピードアップである。このダイヤは昭和8年7月1日に実施され、米原・福井間の所要時間は急行で約30分短縮された。

②福井・滋賀県境の北陸線柳ヶ瀬トンネルは狭小断面の難所区間であった。昭和3年に乗務員の窒息事故が起きている。このため鉄道当局は改善に努め、8年8月には通風排煙設備が完成した。

③福武電鉄の福井駅前乗り入れは永年の懸案であり、国道の拡幅改良とともに実現に向け検討が進められていた。財政難等による拡幅事業の停滞や福武電鉄の経営問題があり遅れたが、大演習を機会として促進機運となり8年10月に駅前乗り入れを実現した。

④大演習関係に直接的な事業としては福井駅の改修があげられる。すなわち、貴賓室の新設や電信電話設備の更新、奉送迎のためのホームや上屋などの改修や駅前広場の舗装が行われた。

(3) その他の施設

交通施設以外でも主として衛生施設の改善が次のように行われた。

- ①市内の側溝・下水路の新設及び改築
- ②塵芥収集箱の改良
- ③市内にある28カ所の公共便所の改修
- ④糞尿は大演習前に汲み取り、演習期間中は汲み取りをしない
- ⑤消火栓の修繕と増設その他

(4) 大演習に間に合わなかった施設整備

演習発表前から計画され、8年当初には演習前の完成が期待されていたが、結局は間に合わなかった施設には次のようなものがある。

①福井市公会堂と新市役所 昭和6年に市内篤志家より公会堂建設のための寄付金があり、種々検討の結果新しい市役所と併設の方向が示された。そして大演習記念事業として位置づけられ8年度市予算に計上された。しかし新敷地の所有者である松平侯爵家との交渉や実施設計に時間がとられ着工も遅れた。10年5月完成。

②旧九十九橋の古材や仮橋材料(旧幸橋の古材)を利用して幸橋と九十九橋との間に「中橋」を架設する構想

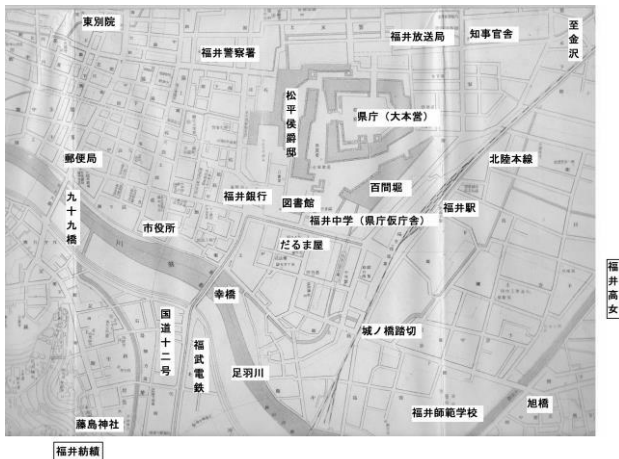


図-2 昭和8年福井市中心部主要施設配置略図³⁾

が持ち上がっていたが、厳しい予算のなかで先送りされた。11年4月竣工

③城ノ橋踏切改善。当時すでに1日の平均遮断時間が8時間に達して「交通地獄」状況にあり、この改善が課題であった。抜本的解決は立体交差であるが(現に人道専用の跨線橋はすでに架設されていた)、これは当面困難であること、遮断時間の相当部分を列車の入れ換え時間が占めていることから、福井市当局は福井駅の機関車の郊外移転を従来から鉄道省に強く求めていた。しかし、鉄道省の予算と北陸線の位置づけでは容易には実現できず、昭和15年12月の木田操車場の完成まで待たなければならなかった。

(5) 追加予算の編成と臨時増税

福井大演習が発表されたのが昭和7年末であり、また詳細な内容も不明であったため、8年度当初予算には大演習関係等の予算は盛られなかった。昭和8年に入り県当局は先例地調査をはじめ、陸軍参謀本部や宮内省と精力的な協議を重ね、新年度の臨時議会に大演習・行幸関係の追加予算を提案した。

まず県予算である。警察費約26万円、県庁舎修繕費約3万円、大演習及行幸諸費約18万円を含む総額約64万円に及ぶものであった。(なお8年全体予算は時局匡救事業の関係もあって前年比24%増の約918万円であった。)⁴⁾

一方福井市の追加予算である。伝染病対策・汚物対策等衛生費約5千円、土木費約1万円、大演習及行幸諸費約5万円を含む総額約7万円に及ぶものであった。(なお8年全体予算は時局匡救事業の関係もあって前年比95%増の約114万円であった。)

そしてこれらの財源である。国庫下渡金、国庫補助金、受益者負担金、寄付金、前年度繰越金、起債等が充てられたが、特に県事業においてはこれらだけではまかなえず臨時増税が行われた。すなわち地租税に関しては約2

0%を付加するなど営業収益税、所得税などへの付加、家屋税は賃貸価格一円に対し約3%負担増などで総額約48万円の増税になった。

5. むすび

昭和8年の陸軍特別大演習の福井地方実施がどのような経緯で決定したのか分からない。戦後の各種イベントのように地元の要望に基づいてというようなことではなくて、政府・軍部の何らかの事情によって一方的にしかも挙行一年前に突如決定したのであろう。

当時の福井県知事の大演習に関する発言には「畏くも」、「千載一遇」、「公共・集会・宿泊施設の不備」、「貧乏財政」などの言葉が頻繁に出てくる。おそらくは小県・福井県にとっては少々重荷かも知れないが、福井県をアピールする絶好の機会ととらえて、取り組んだのであろう。(演習・行幸関係に必要な自動車も県内だけでは足りず京都市内から150両借り上げている) 明けた昭和8年の正月早々からてんやわんやの準備作業が始まったのであるが、この年は大雪や大雨に見舞われた年であり、また中央政府の方針決定も遅く、準備は遅れ気味であった。さらに大本営が県庁舎に設置されるため県庁の仮庁舎に予定されていた福井中学が同年6月焼失してしまうアクシデントにも見舞われる。

何が何でも大演習・行幸に間に合わせるため市内全域いたるところで道路の掘り返し等の突貫工事が展開され交通地獄が現出した。(戦前においても「交通地獄」の言葉が使われている。)そしてこれらの費用をまかなうため経済不況のただなかでの臨時増税である。

本文でも述べたが、皇族・政府軍部頭官の大挙来県、演習参加兵士や陪観者、奉迎参加者等10万人規模を超える大イベントを何とか乗り切ったのである。当時の県民の皇室・軍部のへの思いがこの戦前の一大イベントを成功させたのだろう。

かくて地方都市福井が少し垢抜けしたのであった。

参考文献

- 1)本多義明：福井まちづくりの歴史改訂版、(財)地域環境研究所、2009、pp7-11
- 2)福井県：昭和八年陸軍特別大演習並に地方行幸福井県記録、1935 p360
- 3)福井市：福井市史別巻絵図地図編、1989.
- 4)福井県統計年鑑
- 5)その他 当時の福井新聞記事、1933

(2016. 4. 11 受付)